

- 問1 日本の選挙における年代別の意識や行動について述べた文として、統計的な傾向から最も適切なものはどれですか。18歳から60歳代以上を対象とした調査において、60歳代の投票率が約79%と全年代で最も高く、政治への関心が「わからない」と答えた人の割合が0.3%と最も低い数値であったことを踏まえて選んでください。（2026年 奈良県公立入試 類似）
- 政治への関心の高さと、実際の投票率の間には全く関連性が見られない。
 - 若い年代ほど、政治的関心が強く積極的に投票へ行く傾向がある。
 - すべての年代において、実際の投票率が6割を下回ることはない。
 - 高い年齢層ほど、政治的関心が強く投票率も高くなる傾向がある。
- 問2 少子高齢化が進む日本において、若年層の投票率の低さが政治に与える影響と、その背景にある課題についての説明として最も適切なものはどれですか。（2023年 大阪府公立入試 類似）
- 投票率の差は、単なる個人の意識の問題であり、将来の社会保障制度や予算配分に影響を与えることはない。
 - 若年層の人口が多いため、投票率が低くても若者の意見は十分に政治に反映されている。
 - 若年層の投票率が低いため、育児支援や教育予算よりも、社会保障などの高齢層向け政策が優先されやすくなる。
 - 高齢層の投票率が高いのは、若年層に比べて人口が圧倒的に少ないことを補うためである。
- 問3 衆議院議員選挙で採用されている「小選挙区比例代表並立制」において、比例代表制が果たしている役割や目的として最も適切な説明を選びなさい。（2016年 茨城県公立入試 類似）
- 落選者の票である「死票」を減らし、政党への支持を議席数に反映させやすくする
 - 一票の格差を完全に是正し、人口の少ない地域からの選出枠を確保する
 - 政権交代が起こりやすい二大政党制を、より強固なものにする
 - 個々の候補者の知名度や人格を、有権者が直接評価しやすくする
- 問4 日本の国政選挙で導入されている比例代表制は、各政党の総得票数に応じて議席を配分する仕組みですが、この制度を採用する主な目的として最も適切なものはどれですか。（2018年 神奈川県公立入試 類似）
- 特定の政党が安定して多数派を形成しやすくするため
 - 選挙区を細かく分けることで、地域密着型の政治を実現するため
 - 死票を減らし、少数意見を議席に反映させやすくするため
 - 候補者個人の知名度や人柄を最優先で選べるようにするため
- 問5 選挙制度の特性を「死票の多さ」と「政権の安定性」という2つの軸で整理したとき、小選挙区制が持つ一般的な傾向を説明したものとして正しいものを選択してください。（2024年 岡山県公立入試 類似）
- 死票が多くなりやすいため、民意との乖離が大きく政権の基盤は常に不安定になりやすい
 - 死票は少なくなりやすいが、二大政党制を促進する効果があるため政権は安定しやすい
 - 落選者に投じられた死票が多くなりやすいが、特定の政党が多数派を形成しやすく政権は安定しやすい
 - 死票を抑えることで多様な民意を反映できるが、小政党が乱立して政権運営は不安定になりやすい
- 問6 日本の選挙制度の歩みを振り返ると、かつては性別や納税額によって参政権が厳しく制限されていました。1945年の法改正により、それまでの制限が大幅に見直され、満20歳以上の男女に選挙権が認められるようになりました。このように、財産、性別、社会的身分などによる制限を設けず、一定の年齢に達したすべての国民に参政権を認める制度を何といいますか。（2017年 茨城県公立入試 類似）
- 直接選挙
 - 秘密選挙
 - 平等選挙
 - 普通選挙
- 問7 日本の衆議院議員選挙において、議員1人あたりの有権者数が約49万人の選挙区と、約20万人の選挙区が存在する場合、後者の選挙区に住む有権者の一票は、前者の有権者の一票よりも大きな影響力を持つこととなります。このような「一票の格差」が、日本国憲法の原則に照らして問題とされる最大の理由はどれですか。（2020年 大分県公立入試 類似）
- 日本国憲法第41条が定める「国権の最高機関」として、議員定数は常に一定でなければならないと決まっているため
 - 日本国憲法第25条が定める「生存権」に基づき、地方の人口減少を食い止めるための優遇措置が必要なため
 - 日本国憲法第21条が定める「表現の自由」に反し、都市部の有権者の意見表明が制限されることになるため
 - 日本国憲法第14条が定める「法の下での平等」に反し、投票の価値に不当な差別が生じるとみなされるため
- 問8 選挙制度の一つである比例代表制が、小選挙区制と比較して持っている利点や特徴について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2016年 岐阜県公立入試 類似）
- 当選に結びつかない「死票」を減らすことができ、少数派の意見を議席に反映させやすくなる。
 - 特定の大きな政党が議席の大部分を占めやすくなるため、政権が安定しやすくなる。
 - 選挙の管理が簡略化されるため、小選挙区制に比べて選挙費用を大幅に抑えることができる。
 - 有権者が候補者個人を直接選ぶため、議員と選挙区の住民との結びつきが非常に強くなる。
- 問9 選挙における人々の政治参加の度合いを分析する際、単に「投票しなかった人の数」という実数を見るのではなく、有権者数と比較した「投票率」という指標を用いることが重要とされる理由として、最も適切な説明はどれですか。（2016年 秋田県公立入試 類似）
- 有権者数に対する得票数の合計を算出することで、当選した議員が獲得した票の重みが全国で均等であるかどうかを判断できるから。
 - 投票率は、男女別の投票率の差や立候補者数の増減を計算に含めることで、選挙結果の正当性を証明するための数値として使われるから。
 - 各年代によって集団全体の人数（有権者数）が異なるため、割合で比較することで、その集団がどの程度政治に関心を持っているかを正確に把握できるから。
 - 投票しなかった人の割合が高い年代ほど、将来的にその年代の有権者数が増加するという人口動態の法則が統計的に明らかになっているから。
- 問10 日本の国政選挙に関するインタビューにおいて、ある議員が「私は1つの選挙区から1人の代表を選ぶ制度で当選しましたが、衆議院の解散があったため、任期満了を待たずに約3年で議席を失うことになりました」と述べています。この議員が当選した選挙制度の名称として正しいものを、次の中から選びなさい。（2024年 北海道公立入試 類似）
- 比例代表制
 - 中選挙区制
 - 大選挙区制
 - 小選挙区制
- 問11 選挙制度を「死票（当選に結びつかなかった票）の多さ」と「議会での合意形成の速さ」という二つの軸で分類したとき、比例代表制の性質を説明したものとして適切なものはどれですか。（2026年 岐阜県公立入試 類似）
- 死票が多く特定の政党に議席が集中するため、速やかな意思決定ができる。
 - 死票が少なく多くの政党が議席を得るため、議会での意見調整に時間がかかる。
 - 死票が少なく二つの大きな政党のみが議席を占めるため、決定が非常に速い。
 - 死票が多く多様な意見が切り捨てられるため、議論の対立が起こりにくい。